

古典・名作オマージュ

秋を一気にすっ飛ばして、一気に12月らしい冷え込みになりましたね。
さて、今回のテーマは古典・名作のオマージュです。
テーマにちなんで、今回のページ構成も、第80号のオマージュでお送りいたします。
約6年前のLIKES!、気づいてくれる人はいるかな!?

『京洛の森のアリス』既刊2冊

望月 麻衣/著 文藝春秋 文春文庫

交通事故で両親を亡くし、引き取り先の東北で孤独に苛まれていたありすは、ある時、故郷の京都へ戻れることとなった。しかし、到着した京都は、ありすの記憶とは違う場所であった。その雰囲気は幼いころ「違う世界から来た」と嘯き去って行った少年との思い出を彷彿とさせるものであって…。

ルイス・キャロルのアリスは時計のウサギを追って不思議の国に迷い込みましたが、今作のありすは時計の紳士に連れられて京洛の森に行くことになりました。

不思議の国顔負けの常識破りな京洛の森で、ありす、そして仲間たちは無事に過ごせるのでしょうか？

『かぐや姫のおとうと』

広瀬 寿子/作 丹地 陽子/絵 国土社

自転車から転んで崖より落ちた少年・想は、中学生くらいの不思議な少年・いささ丸に助けられる。

彼は偶然にも竹細工職人を営む伯父の弟子だということで想と仲良くなり、日々少しずつ不思議なことを語ってくれるようになった。

しかしそれは、よく知られた『竹取物語』の影の物語であった。竹職人の翁に拾われた過去、かぐや姫との出会い、姫との親交と隔絶、姫の侍女となった少女・亜古奈との出会い、そして姫との別れ、帝とは別に焚いた不死の薬の煙…。

彼が語りを進める頃、「これを握って生まれてきた」など不穏なことを語り、竹製の宝物を自慢し始めた想の姉、涼子。いささ丸が全てを語ったとき、果たして何が起こるのか。

『シャーウッド』上下巻

駒崎 優/著 新書館

行くあてもなく森をさまよい、腹を空かせた少年、トマスは、鹿を射ろうとするも、別の矢に先を越されてしまった。木々の間から集まってきた4人の男たちに見つかり、彼らが仲間と暮らすねぐらへと招待されたトマスは、彼らこそが森に住むという無法者たちだと知る。事情があり家に帰れないトマスは、彼らとともに暮らし始め…。

弱きを助け強きを挫く義賊、ロビン・フッドの物語は様々な方法で長く語り継がれてきました。それぞれに何かを抱え、家族のように支えあいながら暮らし、そしていつしかロビン・フッドと呼ばれるようになった彼らの絆の物語です。

作者あとがきにも注目！

『人魚姫』探偵グリムの手稿

北山 猛邦/著 徳間書店

まるで死神のような男に驚き、川に落ちた少年ハンス。父親の形見である人形を無くしたことに気付いたハンスは、人形を探す途中で再びその死神…否、画家グリムと出会う。人形探しをするために海へと向かった二人は、砂浜で横たわる少女を見つける。セシナと名乗った少女は何やら焦っているようで…。

アンデルセン童話・人魚姫。美しくも悲しい物語には秘密があった一。

謎の男グリムが解き明かす真実にハンスとセシナが触れる時、二人が下す決断とは？

『【新訳】走れメロス』他四篇

森見 登美彦/著 祥伝社

教科書やテスト問題等でお馴染みの近現代文学で有名な作品達…のパロディ集。構成から文体に至るまで、まさにだいたいあってr…否、完全に一致。しかし原作愛溢れる趣向にギャグまで加わり抱腹絶倒間違いなし。原作読者なら二度楽しめ、原作未読でも原点に興味を持てるお得な(?)一冊。